

5) オオカラスウリ (ウリ科)

多年生ツル植物。本種は葉の切れ込み方などがモミジカラスウリとよく似て紛らわしいが、萼の裂片には牙齒があり、果柄が短く、葉がざらつく点などで見分けられる。

日本から台湾、中国、東南アジア、インドにかけて広く分布する。わが国では本州（山口県萩市）、九州に知られていたが、兵庫県からの報告はなかった。黒崎史平氏は1979年9月に淡路島南部の灘で本種をはじめてみいだした。その

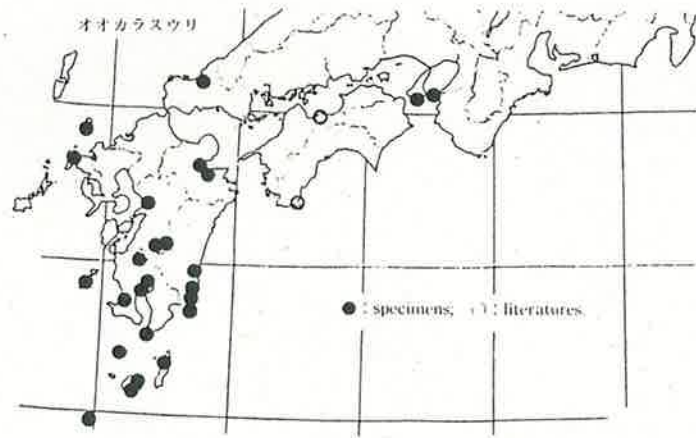


図4 オオカラスウリの分布
(福岡, 黒崎 1988)

後筆者も1984年8月に第1発見地の10km東で本種を見つけ、そこが本種の分布東限地であろうと報告したが、その後大阪市立自然史博物館の標本庫に山本氏が淡路島の東にある友ヶ島（地ノ島）で採集した標本があることがわかり、今では友ヶ島が本種の分布の東限地ということになっている（図4）。図鑑では四国に分布することになっているが、黒崎氏が調べたところ本種の四国における標本はみられなかったという（福岡, 黒崎 1988）。また阿部近一氏の私信でも徳島県には本種はみられないという。

熱帯から日本列島に広く分布する植物の分布の北限を規定するのは多くの場合気温であり、最低気温の等温線に沿って分布を広げるのが普通である。その中において本種は後述するキキョウランとともに淡路島及び和歌山県西部が分布の北限地になっており興味深い。気象条件以外に本種の分布を制限して要因があると考えられるが、明らかではない。今後の究明が待たれる。

6) ヒメノダケ (セリ科)

多年生草本。本種はノダケに似るが、葉が単羽状に複生し、果実（分果）の翼が狭いことなどで区別される。とりたてて特徴のある植物ではないが、その分布の態様は注目される。

近畿地方以西、四国、中国地方、九州、朝鮮、中国東北部に分布するといわれている。近畿地方における分布状態が明らかでなかったため、京大、大阪市立自然史博物館及び頌徳大学の標本を調べ、近畿地方



著者略歴

1943年東京都生れ。
東京大学工学部卒業。
現在 兵庫県立公害研究所主任研究員。
仕事の傍ら、週末を利用して県下の植物調査を続けている。
植物分類地理学会、植物地理分類学会、大気汚染学会会員。
著書「西神戸の植物」（1989年刊）。

自然環境研究所

1. 自然環境・生態系保存に関する調査研究 2. 自然と調和した開発、
整備事業、地域づくりに関する研究及び提言 3. その他自然保護、
環境保全に関連する事業を行なうことを目的に、当面淡路島を中心
に活動している。

淡路島の植物誌

Flora of the Awaji Island

自然環境研究所特別出版物第1集

1992年5月20日発行

著者	小林 禧 樹
	〒673 明石市大蔵谷清水 583-36 TEL (078)911-0034 <郵便振替>神戸 2-61702
発行	自然環境研究所
	代表 登日 邦 明
	〒656-21 兵庫県津名郡津名町大町畑 235 TEL (0799)62-2069 <郵便振替>神戸 2-74798
印刷	れいめい社
	〒656 洲本市本町 5-1-24

【実費頒布】